

2020年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1470800622	事業の開始年月日	平成15年2月1日
		指定年月日	平成18年4月1日
法人名	社会福祉法人湘南福祉協会		
事業所名	グループホームそよ風		
所在地	(236-0022) 神奈川県横浜市金沢区町屋町11-16		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	9名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	0名
		宿泊定員	0名
		定員計	9名
		ユニット数	1 ユニット
自己評価作成日	令和2年12月28日	評価結果 市町村受理日	令和3年5月27日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> 入居者の皆さんの生活習慣・生活歴等個性を大切に考えております。家にいるように自由に暮らせるよう支援している。 近隣との関係は良好で、立ち話しや挨拶も地域の一員として受け入れて下さっている。 法人が総合病院の為、医療面でのサポートを受けやすい。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和3年2月16日	評価機関 評価決定日	令和3年5月14日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は、京浜急行「金沢文庫」駅あるいは「金沢八景」駅から徒歩約10分、歴史ある寺町の面影を残す街の中にあります。木造2階建て家屋を改修した、1ユニット9名定員のグループホームです。グループ運営法人が総合病院のため、法人内の病院受診には管理者が同行支援をしています。

<優れている点>

日課の散歩のほか、買い物（スーパーマーケット、市役所の売店、郵便局、花屋など）で人出のあるところに寄ることが入居者の楽しみでしたが、現在はコロナ禍のため、当たり前に行ってきたこの支援ができない状況が続いています。この様な中でも、入居者が自宅のように自由に暮らすことを大切に考えていることも有り、事業所玄関前にベンチを置き、誰でもが休めるようにしていることや、入居者が玄関前で季節の草花の手入れなどをしながら、通りかかった近隣の人々とごく短時間の会話をすることなどはできる限り継続しています。近隣から果物や野菜の差し入れもあります。また、個別に親族の結婚式出席の支援もしています。今年の初詣では人出が少なくなる頃に全員で出かけ、家族の無事を祈ってきています。

<工夫点>

新型コロナウイルス感染予防対策に特に力を入れています。新しい生活習慣として日々入居者への働きかけを繰り返した結果、完全ではありませんが、手洗い・消毒・マスクの使用はほぼできるようになっています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームそよ風
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価 平木	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	職員、関係者が目に付く玄関、事務所に理念を掲示し、職員が常に理念を確認できるようにしている。	法人の理念「安心と安寧に満ちた生活」に基づいた事業所の介護姿勢を変わずに継承しています。玄関・事務所に掲示し、確認ができるようにしているほか、年度始めの職員会議では理念に基づいた各自の目標を出しあっています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	ホームの玄関前にベンチを置き、どなたでも休めるようにしている。ホームの皆さんがお花の手入れをしているとほめて頂ける。お菓子や野菜のやり取りもある。	コロナ禍のため、これまで参加していた町内行事はほとんど中止になっています。玄関前での季節の花の手入れ、草むしりなどは継続しているため、近隣の人々との短時間の立ち話もしています。果物や野菜の差し入れもあります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	電話での入居希望の相談や、見学に見えたご家族からの相談を受けることもある。ご近所の方と入居者が一緒に行事に参加することで、認知症を理解していただいている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	民生委員・地域包括支援センターケアマネジャー・地域の方・利用者家族・利用者様の参加を頂いている。ホームの状況などをお伝えし、参加されている皆様からは、サービス向上に向けて様々なご意見を頂いている。	今年度、運営推進会議参加メンバーの変更はありませんが、コロナ禍のため、主に書面にて事業所の活動報告やヒヤリハット、事故報告をしています。電話でメンバーから激励の言葉などを得ています。令和3年3月は通常開催する旨を伝えています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	3か月に1回、金沢区グループホーム連絡会があり参加している。金沢区福祉課課長さんの参加もあるので、様々な意見交換、連絡調整を行っている。市からの報告など、直接聞くことができる。	区の高齢支援課に運営推進会議の議事録を毎回送付し、事業所運営の報告や実際について知ってもらっているほか、困難事例についての問い合わせに応じています。区のグループホーム連絡会の会合を通して連携を図っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価 平木	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束は行っていない。 定期的な職員研修を行うことで、身体拘束をしない共通の認識ができています。 玄関の施錠については、現在は施錠することで安全を図っている。 地域推進会議において話し合った結果。	身体拘束に関する定期的な研修のほか、チェックシートでセルフチェックの機会を作り、職員のさらなる意識の向上に取り組んでいます。玄関の施錠については入居者の安全確保を最優先にすることを運営推進会議での話し合いで決定しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	法人の指導・職場研修で定期的に学ぶ事で共通認識ができています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	必要に応じて、安心センターや後見人を利用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居時、ご家族に契約書に沿って説明し、同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族の面会時、管理者、職員と話す機会を取っている。 連絡事項、報告事項でご家族に連絡を取る際にも、必要に応じてご家族のご意見を伺うようにしている。 運営推進会議の際にも、ご家族からご意見をいただくようにしている。	家族の面会、必要に応じての電話連絡、運営推進会議など管理者、職員と話す機会を作り、意見や要望を聞いています。昨年度の目標達成計画の「今までのお便りをもっと伝えるような方法に変えていく」ことに関しては、写真を多く取り入れるようにし、家族からは好評です。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価 平木	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員会議、朝夕のミーティングの中で積極的に、スタッフの意見を聞き、反映させている。	朝夕2回のミーティングや職員会議で意見・要望を聞いているほか、管理者はフリーの立場で日頃から現場に入り、職員とコミュニケーションを取るよう努めています。年に一度自己申告という形で話を聞く機会もあります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	勤務体制、有給取得等 職員の希望をできる限りに取り入れて、働きやすい職場づくりを心掛けている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修に参加しやすいような、声掛けを心掛けている。 資格取得に頑張っているものを応援する。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	金沢区内のグループホーム連絡会や研修会に参加、交流を深めている。 他施設との交流会を持てるように取り組んでいる。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	職員全員が出来るだけご本人とお話する時間を持ち、必要に応じ全員の共通事項にしている。 ホームの中でできるだけ早く、ご本人の居場所や役割が見つけられるよう心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価 平木	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入所に至る経緯を伺い、ご家族のお気持ちに寄り添うように心がけている。 困りごとは隠さず一緒に対応できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご家族・ご本人に出来るだけ具体的な対応を心掛説明するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	入居様様がやりたいこと、出来ることは行って頂く。職員の知らない食べ物などの作り方を教えて頂き、一緒に作ることもある。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	隔月に出しているお便りや、メール等で入居者様の様子はお知らせしている。 ご家族にも一緒に考えて頂くよう相談している。 すぐに対応もして下さる。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	何時でもきて頂けるようにお話ししている。 散歩の時などは、近所の方から挨拶され立ち話しになるときもある。一緒に楽しむ。	コロナ禍のため、面会は玄関先で15分の制限をしていますが、家族や友人・知人の来訪を歓迎しています。入居者の生活習慣であるミルクやコーヒーを飲むという個別の配慮は継続しています。親族の結婚式出席の支援を行った事例があります。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価 平木	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者様同士がお互いのお部屋に行き来して交流がある。話もなく座っているだけの時もある。もめるときもある。そういう時は職員が間に入り支援する。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	終了しても、相談は受けている。ボランティア、地域推進会議などに参加いただけるご家族もある。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	改めて聞いても話して頂けないときもあります。入浴や散歩など個々に係わるときに、思いを聞くことができる。	井戸端会議と称したおしゃべりの時、湯茶を飲んでリラックスした時、個別の散歩の時など、言葉かけを多くするよう努め、思いや意向の把握をしています。本人の考えで入浴拒否がある場合は、下着の着替えだけはしてもらおうなどしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご本人の生活歴・生活習慣等は大切に支持していきたい。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	朝夕の申し送り・職員会議などで入居者様の心身の状態をし、職員間で情報が共有できるよう心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価 平木	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	職員会議で定期的にカンファレンスを行っている。 状態変化の時にはモニタリングを行い、新しいケアプランに反映している。 ご家族からは、来所持の面談等要望などお聞きしている。	本人・家族の意向を反映したケアプランは、利用者一人ひとりの状況に合わせ、長期、短期目標の期間をそれぞれ設定しています。状態の安定が続いている場合は1年でモニタリングをしますが、変化がある場合は期間に拘わらず見直しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護記録に日々のご様子を記録している。 朝夕のミーティングで確認したことを、孟子送りとして記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご家族によっては、残された夫（妻）が一人暮らしになってしまうため、残されたご家族の支援が必要なケースもある。 地域包括などの機関につなげる必要なこともある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	町内会、地域包括支援センターなどを活用し、入居者様の生活がより良くなるように努めている。 今年度は、すべての行事が中止となってしまう。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居者様・ご家族様の希望にそって主治医を決め、定期的な受診を行っている。	事業所の協力医療機関のほか、入居者・家族が決めたかかりつけ医に受診しています。法人内の病院受診には管理者が同行し、受診時の情報は個人ファイルで管理をしています。また、看護師が毎週来訪して利用者の健康管理をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価 平木	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護ステーションと医療連携を行い、1回/W看護師が基本的な健康チェックを行っている。 又、法人が総合病院のため必要な時には、法人に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、つホームから病院に介護サマリを渡している。 入院中は、医療スタッフから状況を細かく聞き、退院時には、必要に応じてカンファレンスを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	基本的に看取りは行っていない。 (往診の医者が来ていない為) ご家族からの希望はある。	重度化や終末期と判断した場合は、家族との話し合いを密にして、方針を共有しています。弱く過敏になった皮膚の手当て、職員2名体制の入浴介助、入居者にとって最善の退所先の決定まで丁寧な支援を続けています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	入居様の急変や事故については、職員税印が初期対応、緊急連絡ができるように定期的を確認している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	災害・火災時の訓練は年2回行っている。風水害時自主避難場所として近くの特養ホームに了解を得ている。	今年度は災害・火災時の自主避難訓練を入居者も参加して2回行っています。消防署には行動計画書を持参し、確認してもらっています。備蓄は水や食料品を3日分程度のほか、備品類も保管管理をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価 平木	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	親近感のある対応を心掛けているが、言葉使いや対応が、入居者様の年配者としての誇りやプライバシーを損なうことがないように注意している。	研修で人格の尊重の意識を高めています。入居者の呼び掛け方は本人に確認しています。希望により、下の名前に「～ちゃん」で呼ぶこともあります。フレンドリーになりすぎず、「親しき仲にも礼儀あり」の気持ちをケアの実践の中で生かしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	職員は入居者様が自己決定できるよう、可能な限り寄り添う支援をしている。それでも我慢や不満のある様子が見える方には個別にお話ができるような雰囲気を作る。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者様一人一人のペースを大切にしている。職員は入居者様が、自力で日常の活動を行うことができるよう見守り、待つことを基本にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	入居者様の好みを哀切にしなごら、季節感、清潔感が出るように、声掛け等支援している。美容院なども、それぞれ希望のお店へお連れしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	入居者様の嗜好は入所の時にお聞きしている。でも好みが変わることもある。いつも食べていた物が嫌になっていたり、食べられないと言う物が、普通に食べていたりする。職員間で常に新しい情報を共有している。	食事は入居者それぞれの嗜好を常に把握しながら職員の手作りで提供しています。入居者は自分の箸・茶碗・湯呑を使っています。「いただきます・ごちそうさま」の挨拶当番があります。職員も同席し会話をしながら食事を楽しんでいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価 平木	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	基本的な水分摂取量、個々に合う食事形態は常に守っている。 現在食事介助の方は1名。食べ方に見守りの必要な方3名がいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食後は必ず口腔ケアをおこなっている。自力でできない方には、歯磨き介助を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	必要な入居者様には、排泄記録を取り確認している。ここに介助も行っている。 自立に向けた支援として声掛け・見守りを行っている。	食事前の声掛けのほか、本人の仕草や動きから判断し、トイレ誘導や見守りをしています。職員の支援方法の工夫により、認知症からくる行動に課題があった入居者の日中の排泄が改善した事例があります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	食物繊維が取れるように野菜中心の献立を心掛けている。 水分摂取も必須と考え食事前・10時・3時その他散歩や体操あと体を動かした後に麦茶やポカリスエットなどを飲んでいただく。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	基本的に3回/Wで入浴していただく。 ご本人の、希望や身体状況で入浴回数を変える。 日曜日は、レクリエーションに重きを置き、入浴は基本休みとしている。	基本的に入浴は週3回です。職員と歌を歌いながらの入浴や、季節の到来を愛でる菖蒲湯、柚子湯、温泉気分の入浴剤も楽しんでいます。拒否のある時はタイミングをずらしたり、「一番風呂ですよ」などと声掛けに工夫をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価 平木	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	入居者さまの睡眠パターンを把握し、夜間徘徊があっても、入居者様が安全に動くことができるよう工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬は、職員が管理している。 カンファレンス等でそれぞれの薬について確認・使用目的・種類を理解している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	入居者様それぞれの出来ること、やれることを探りながら、日常生活の中や、レクリエーションに取り入れている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	毎日の散歩を日課としている。 買い物なども入居者様と一緒にいくことを心掛けている。ただし今年度はコロナ感染拡大のため思うように支援できない。	日課にしていた散歩のほか、買い物（スーパーマーケット、市役所の売店、郵便局、花屋など）で人出のあるところに寄ることが入居者の楽しみでしたが、コロナ禍のため、この当たり前に行ってきた支援ができない状況が続いています。	新型コロナウイルス感染拡大の収束後には、日常的な外出支援の再開を期待します。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご自分で少額お持ち頂き買い物などしていただいている。 物取られ妄想等ある方は、お預かりしておりお買い物当必要時にお渡ししている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価 平木	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	基本何時でも電話の出来る状態にしている。外部からの電話の取次ぎも常時行っている。手紙も自由に出せるように、支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居者様と一緒に季節感のある花壇づくりを楽しむ。季節の花や写真などを飾り穏やかに楽しく過ごせるような環境作りをしている。	リビングの壁面中央に「そよ風の樹」と称したフェルト製の大きな手作りの樹があります。季節に応じ花（2月現在は梅の花）や葉が変わります。季節の飾り物や行事写真は玄関辺りの壁面に掲示しています。入居者は自分の写真を見つけて楽しんでます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	玄関にはベンチを設置。一人になりたい方は、そこに座り過ごすこともある。気の合う方は、それぞれのお部屋を行き来して楽しんでる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室は、ご本人の馴染みの家具を可能な範囲で持ち込んで頂いている。 入居者様の希望に沿った部屋作りを心掛けている。	エアコン、照明、クローゼット、洗面台、ベッドが備え付けです。加湿器は常時稼働しています。室内には使い慣れた家具、思い出の品を持ち込んでいます。気の合う入居者同士が居室を行き来し、楽しんでます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	歩行が可能な方には、2階の居室を利用して頂き最低でも日に3回（食事の時）は、階段を上がりおりしていただいている。		

2021年度

事業所名 グループホーム そよ風

作成日 令和3年 5月 25日

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた 具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1		夜間覚醒が頻回な方、服薬なしで日中の活動量を増やせないか。家族は薬を使ってほしい。転倒が考えられる方に服薬以内の支援をカンファレンス・モニタリングに繋げていきたい。	昼夜逆転にならない・させない	日中の活動量を活発にしていく 出来るだけ外気にあたる ごく少量眠気を誘う薬を就薬として使う。	6
2		一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保	親しき中にも礼儀ありをわすれない	職場研修で人格尊重の意義を高めている。 名前の呼び方等は本人に希望を確認。 フレンドリーの中にも礼儀ありを実践	12
3		感染症予防 インフルエンザ ノロウイルス 腸管出血性大腸菌感染症 新型コロナウイルス感染症	それぞれの感染経路を知る 自分自身が感染者や媒介者にならない	毎日の体温測定・手洗い・マスクの着用・ アルコール消毒・拭き掃除の徹底・体調不良の時は休む。	12
4					ヶ月

5/27 受理日